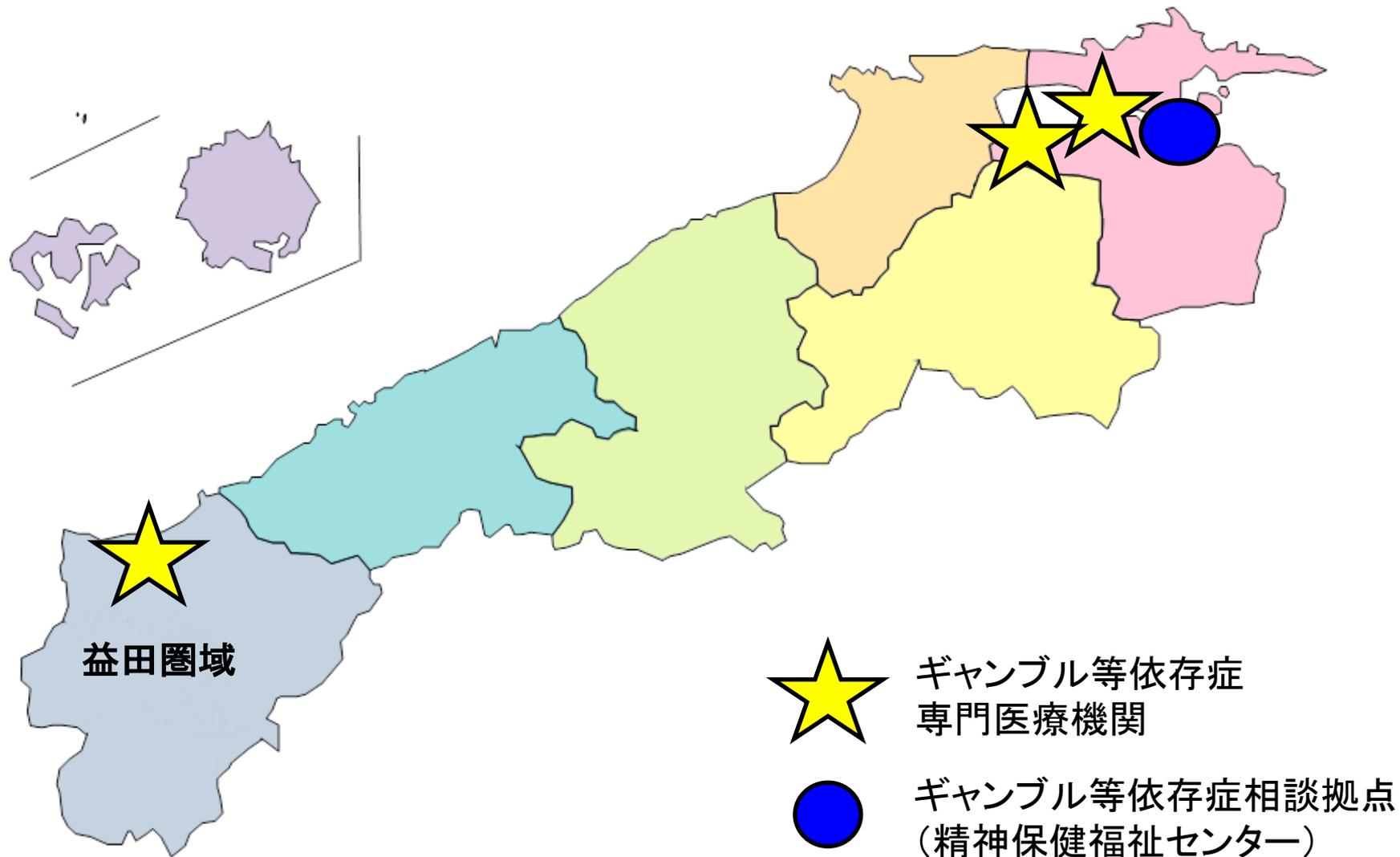


支援プログラムを活用した ギャンブル等依存症支援の取組

令和元年9月24日
島根県立心と体の相談センター
(精神保健福祉センター・ギャンブル等依存症相談拠点)

主任精神保健福祉士 佐藤寛志

ギャンブル等依存症 相談拠点・専門医療機関設置状況



本日お話しすること

- 1) 支援プログラムを活用した
ギャンブル等依存症支援の取組
- 2) 支援プログラムを活用した
2次医療圏域でのネットワーク作り

島根県の取り組み経過

平成18年度～ 研修会の開催

平成24年度 県内全域でヒアリング調査

平成25年度 所内クリニカルパス作成
リーフレット作成
ホームページで情報発信

親しみやすいリーフレット作成



相談を誘いかけるホームページを作成

2. 嘘や隠し事

ご本人へ：こんなふうに考えたことはありませんか？

- ・ギャンブル等の負けを、ギャンブル等で取り戻そうと考える
- ・借金を返すためにはギャンブル等をするしかないとする
- ・ギャンブル等をしている時だけは、嫌なことが忘れられると考える

誰にも相談できず、悩んでいませんか？
ギャンブル等依存症は適切な支援につながれば回復可能です。
心と体の相談センターでは、ギャンブル等依存症についての来所相談を受け付けています。あなたからのお電話をお待ちしています。

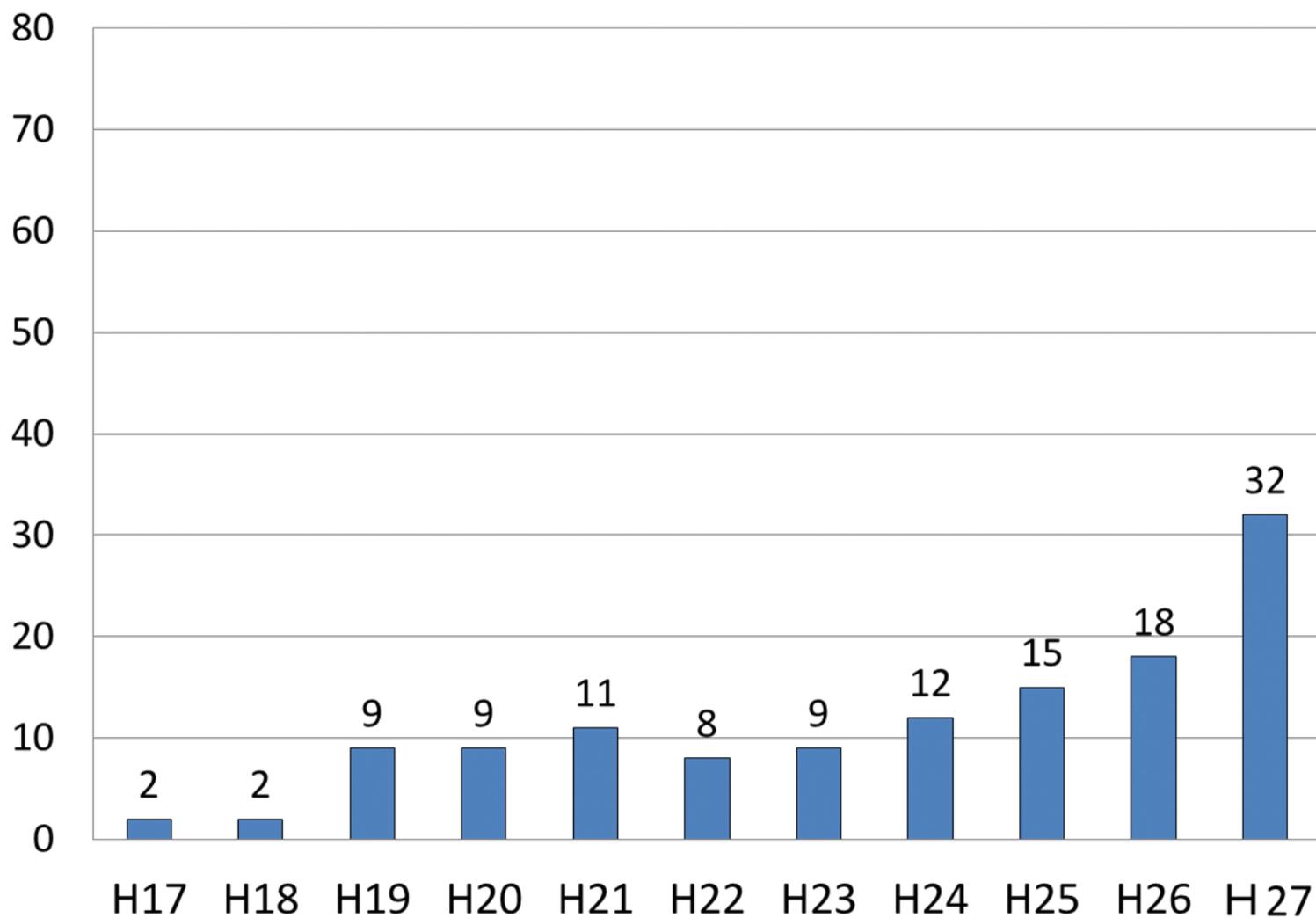
心と体の相談センター 0852-21-2045
専門相談ダイヤル

ご家族へ：このような経験はありませんか？

- ・ギャンブル等をやめることを約束する代わりに、ギャンブル等で生じた借金を肩代わりする
- ・またギャンブル等をしているのではないかと不安に思い、本人の行動をせんさくする

誰にも相談できずに悩んでいませんか？
ギャンブル等依存症は適切な支援につながれば回復可能です。
心と体の相談センターでは、ギャンブル等依存症についての来所相談を受け付けています。

来所相談件数(実数)が増加した



当時の課題

① 当事者が相談につながらない

- 初回来所の多くは家族
- 家族の相談から、当事者の相談につながらない

② 継続相談に至らない

- せっかく当事者がつながっても1～2回で来所が途絶える

臨床で感じていた当事者の思い

- どうしたら、ギャンブルがやめられるのか？
- ここでは、私に何をしてくれるのか？
- いつまで、ここに来ればいいのか？

そこでプログラム(SAT-G)を開発

(Shimane Addiction recovery Training program for Gambling disorder)



【第1回】

あなたのギャンブルについて整理してみましよう

【第2回】

引き金から再開にいたる道すじと対処

【第3回】

再開を防ぐために

【第4回】

私の道しるべ

【第5回】

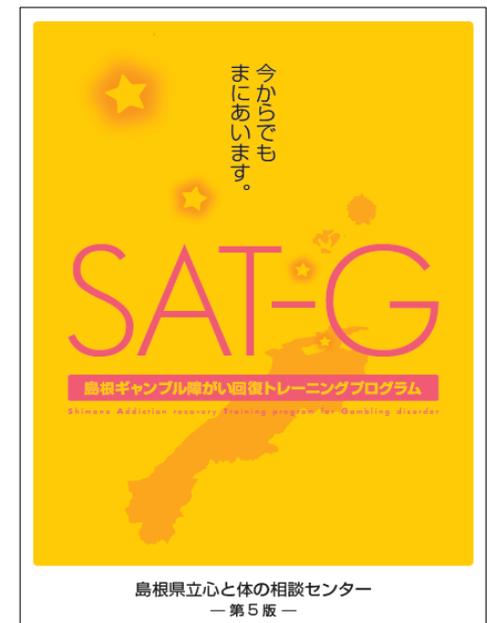
回復への道のり

【アンコールセッション】

回復のために ～正直さと仲間～

SAT-Gの特徴

- ギャンブル障害に特化した認知行動療法プログラム
- 覚せい剤依存症用の支援プログラムSMARPPを参考開発
- ワークブックを用いて実施
- 全5回のセッションを月1回実施
- 目標は利用者が決める



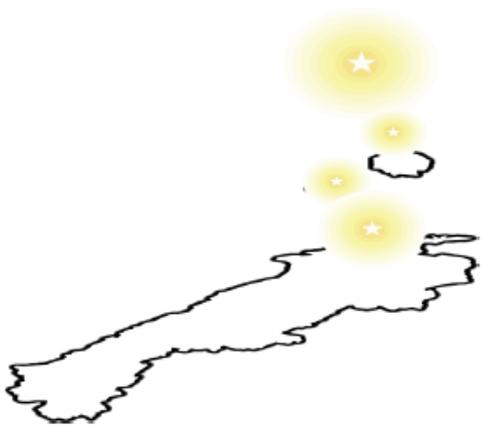
実施者用のマニュアルテキストも完備

今からでも
まにあいます。

SAT-G

Shimane Addiction recovery Training program for Gambling disorder

【実施者用マニュアル】



島根県立心と体の相談センター
— 第5版 —

【第2回 引き金から再開にいたる道すじと対処】

引き金を特定して、徹底的にさげよう！

【ポイント①】
基本は、「誘み合わせ」+「課題の取り組み」

ねらい=引き金の特定と具体的対処を学ぶ。

(1) 引き金
引き金とは、ギャンブルへの渴望を引き起こす、人・場所・物・状況・気持ちなどのことをいいます。たとえば、ある人が毎月給料日に、仕事の後、コンビニのATMでお金を引き出して、パチンコ屋に行っていたとします。このような場合、この人の引き金は、次のようなものでしょう。

【引き金】

給料日、仕事の後、コンビニ
ATMの機械、お金、パチンコ



引き金があり、そしてギャンブルをする、ということは何度もくりかえすと、あなたの脳は、引き金とギャンブルをすぐに結びつけてしまいます。つまり、たった一つの引き金によって、あなたはギャンブルへかかりたてられてしまうようになるのです。引き金→思考→渴望→再開、というサイクルはなかなか断ち切ることができないものです。

引き金から再開にいたる道すじ



引き金 → 思考 → 渴望 → 再開

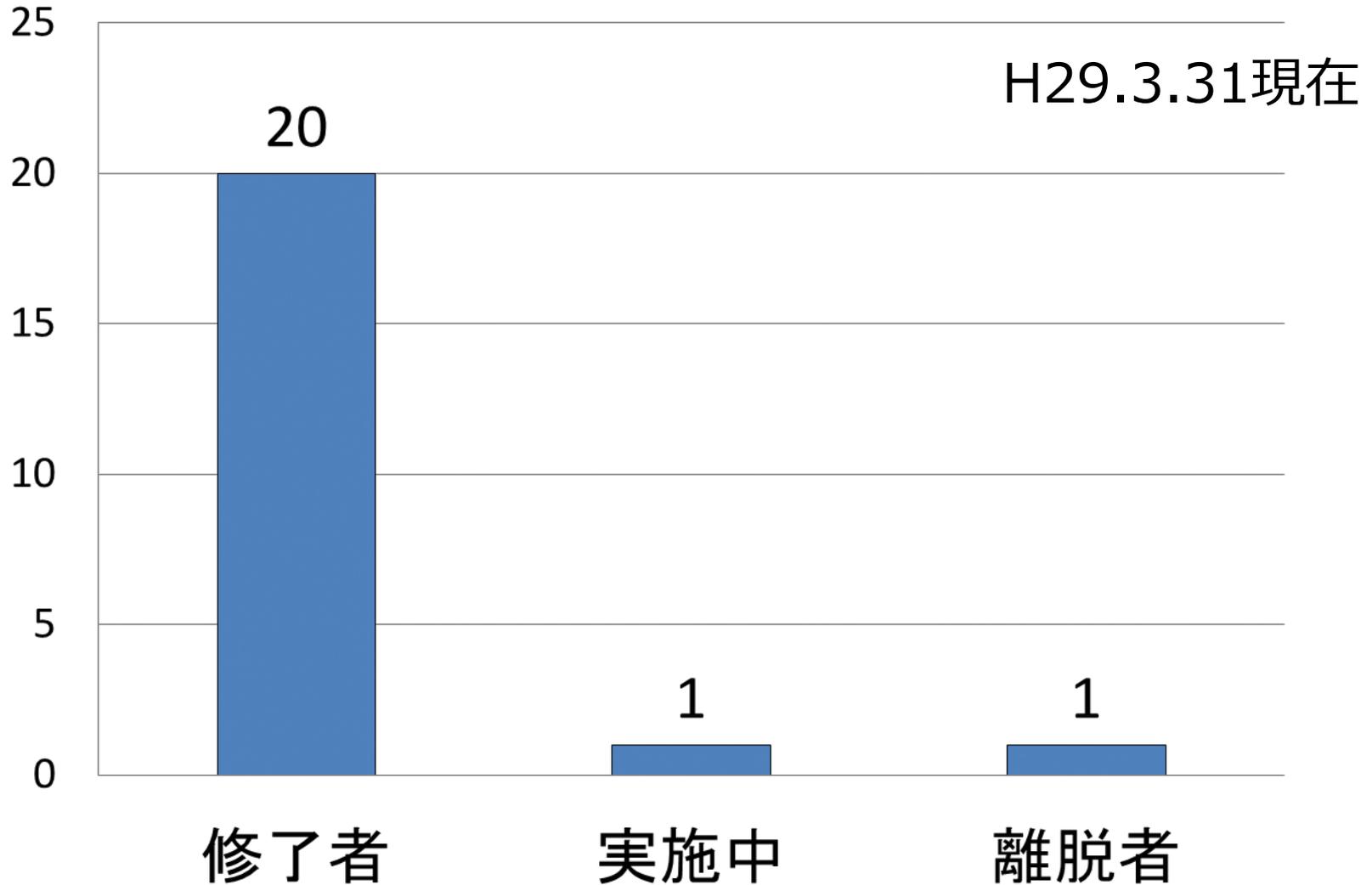
島根県立心と体の相談センター SAT-GP-16
第2回「引き金から再開」への段階的改善

SAT-Gの強み

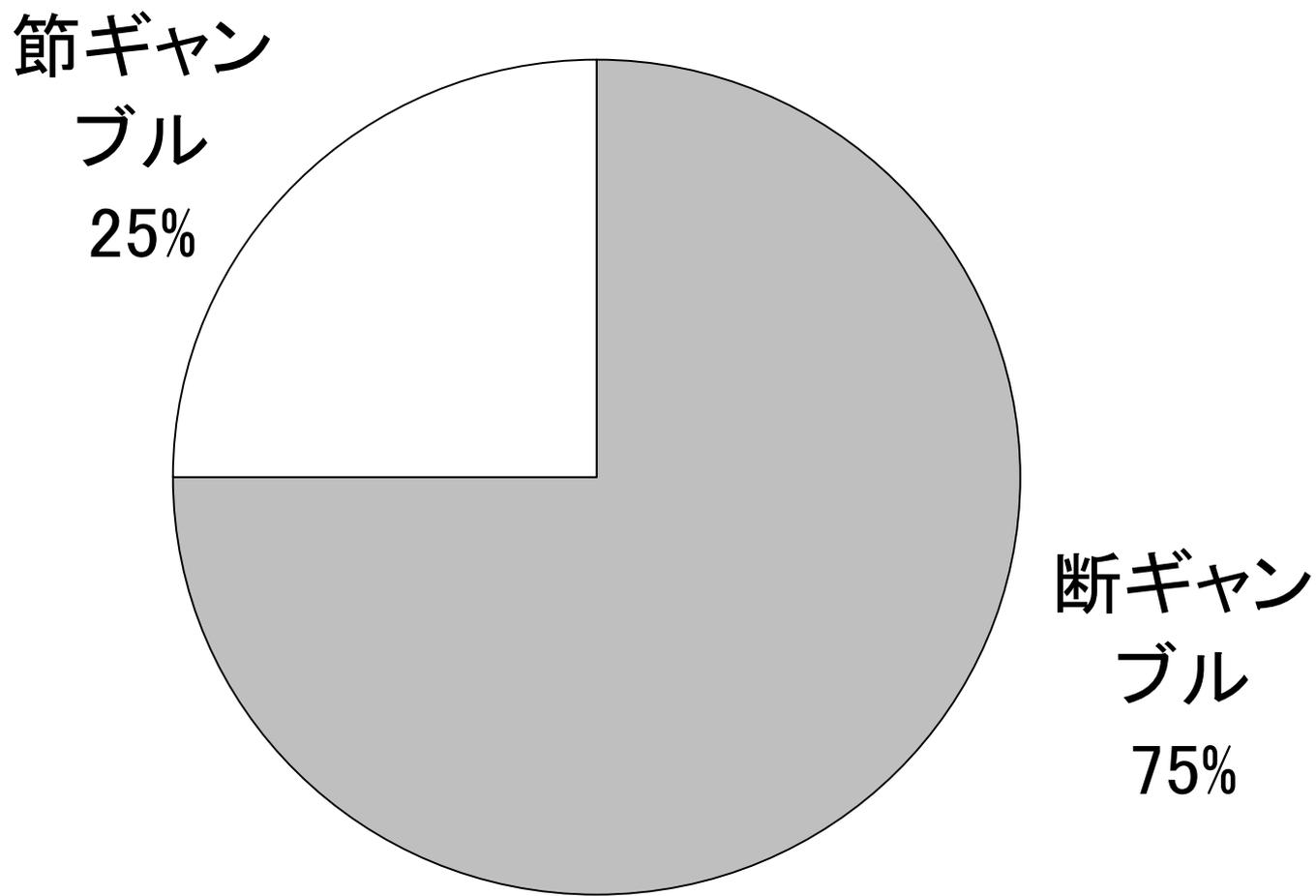
- ワークブックを読み合わせが基本のプログラムのため、実施職員の専門性に依拠しにくい
- マニュアルテキストがあるため異動のある職場でも支援技術を継承しやすい
- 既に精神保健福祉センターで広く活用されているSMARPPがベースのプログラムであるため、精神保健福祉センターで取り入れやすい
- 支援の枠組みが明確であり、当事者に受け入れられやすい

プログラムの効果は？

プログラムからの脱落が少ない(n=22)

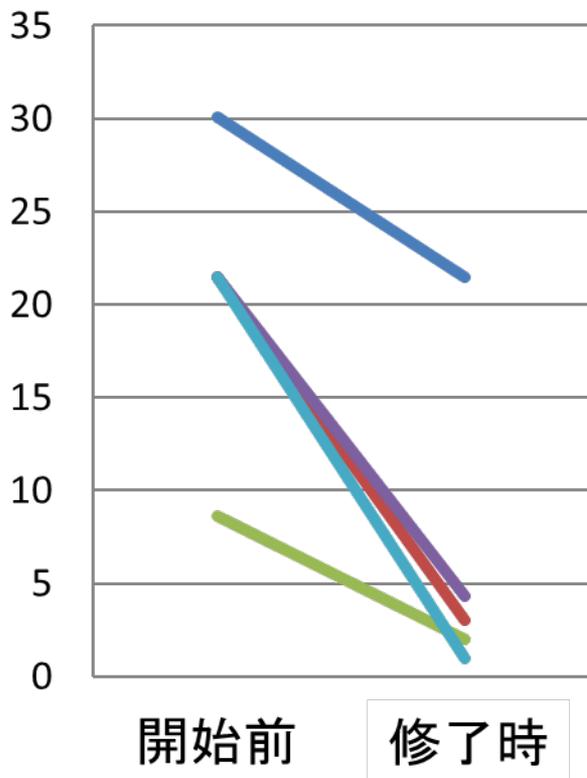


修了時は断ギャンブルが3/4(n=20)

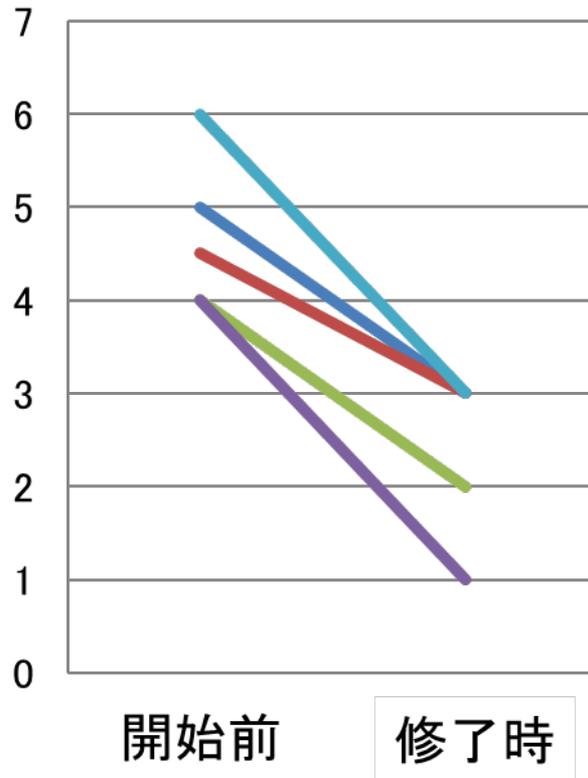


節ギャンブル者も大幅改善 (n=5)

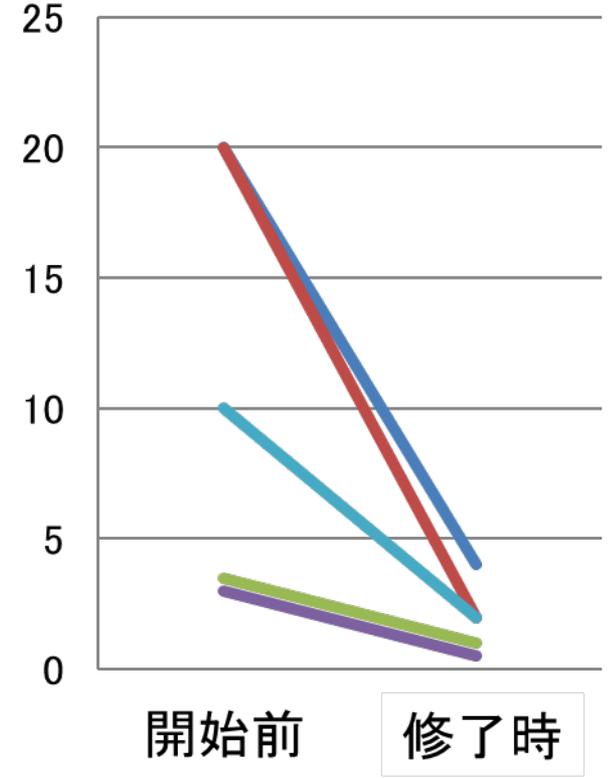
頻度



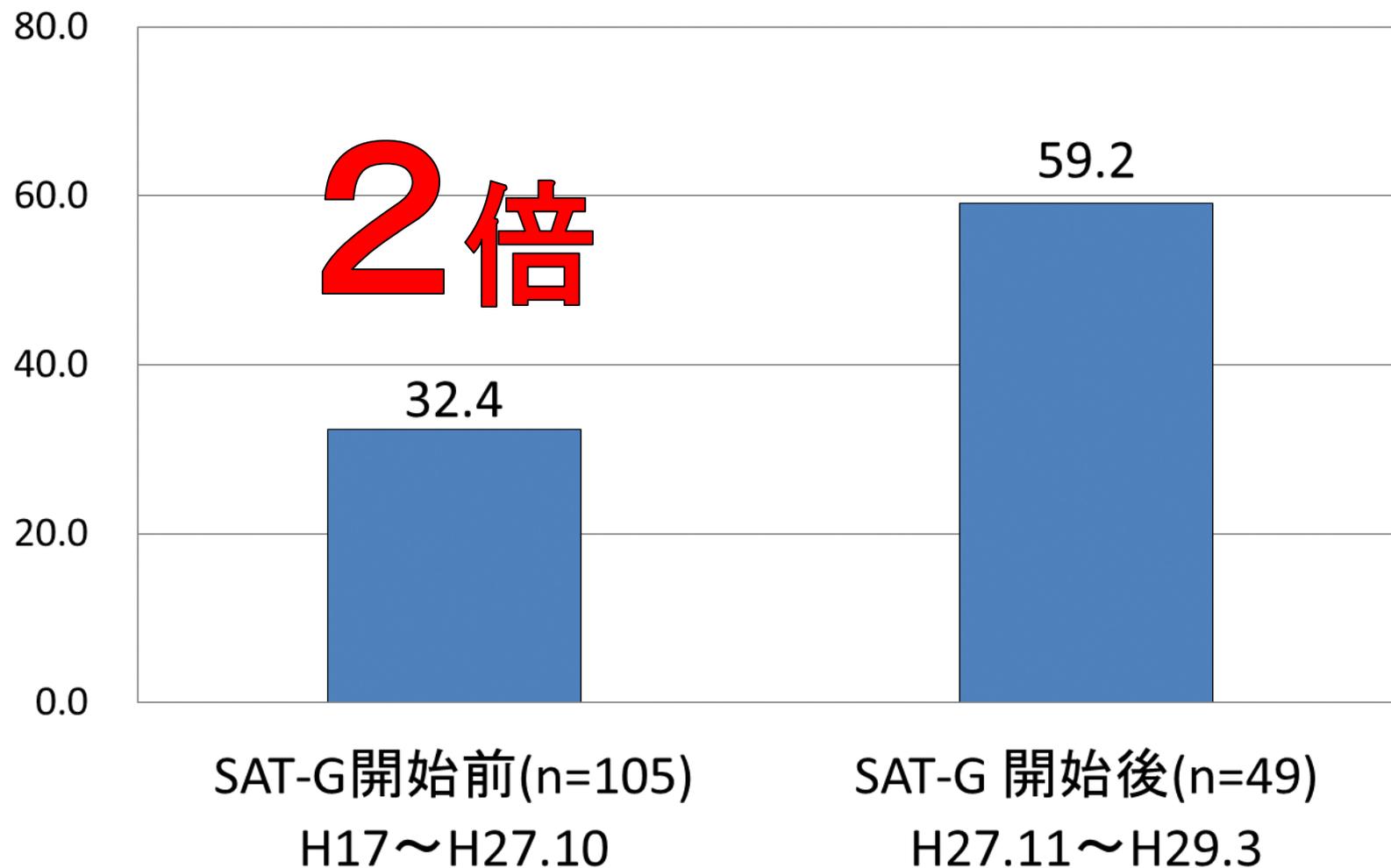
時間



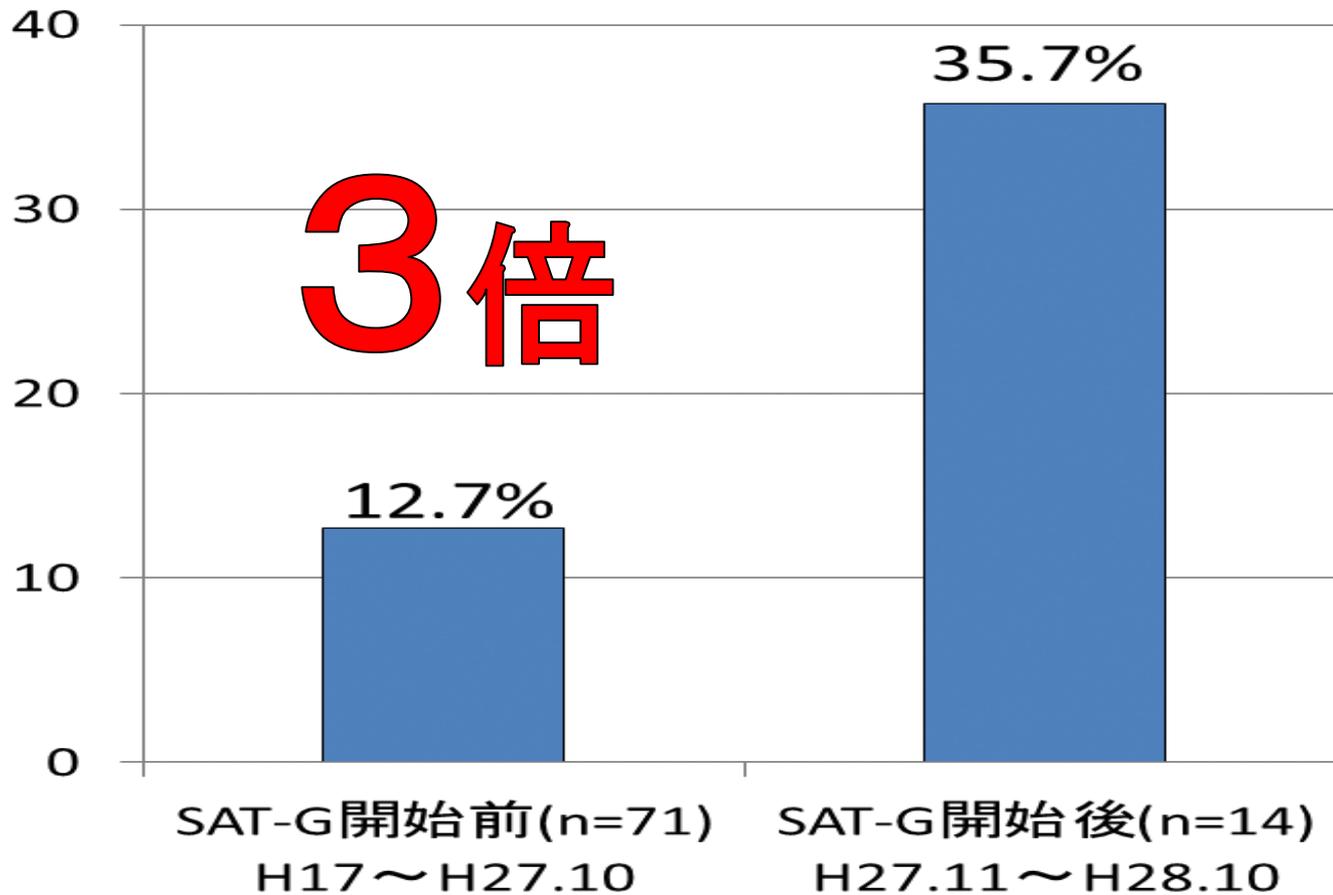
金額



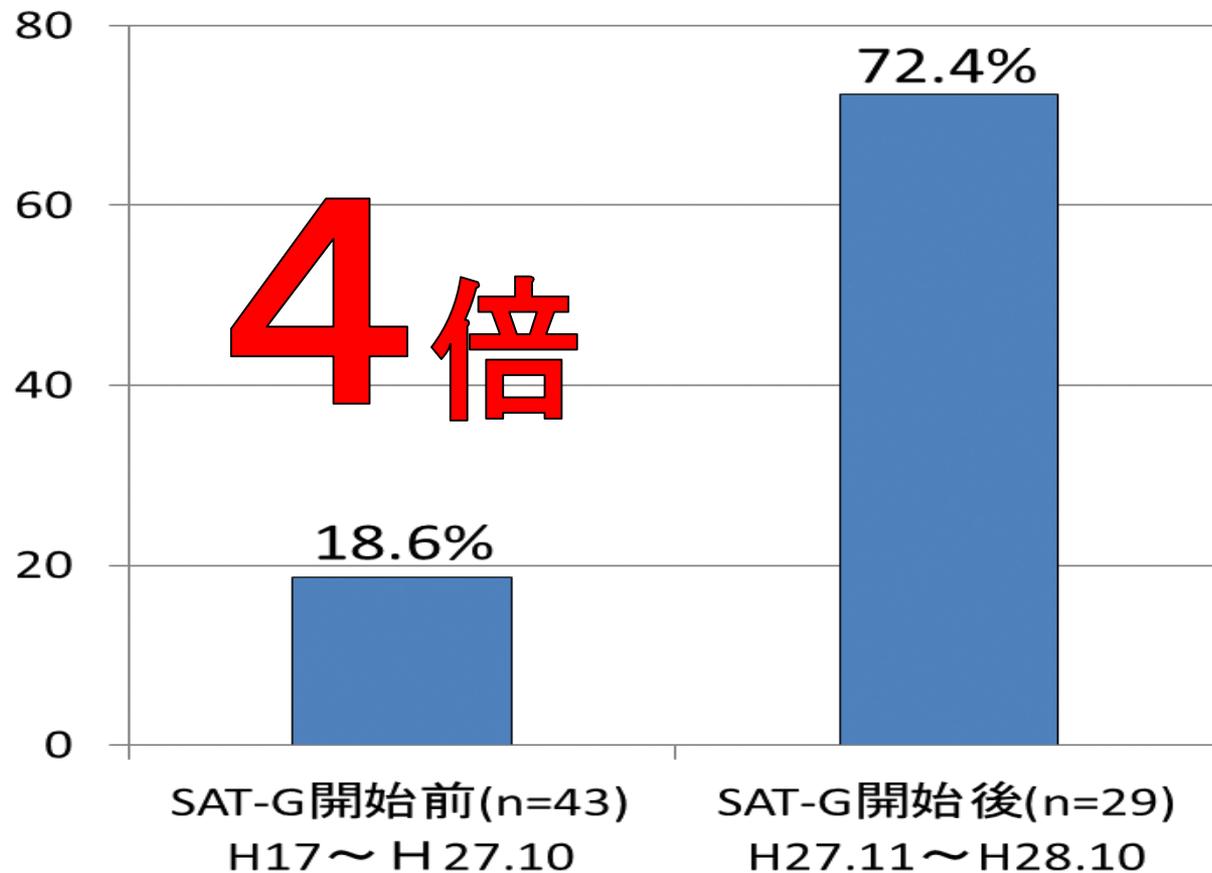
初回から本人が来所する割合が増加



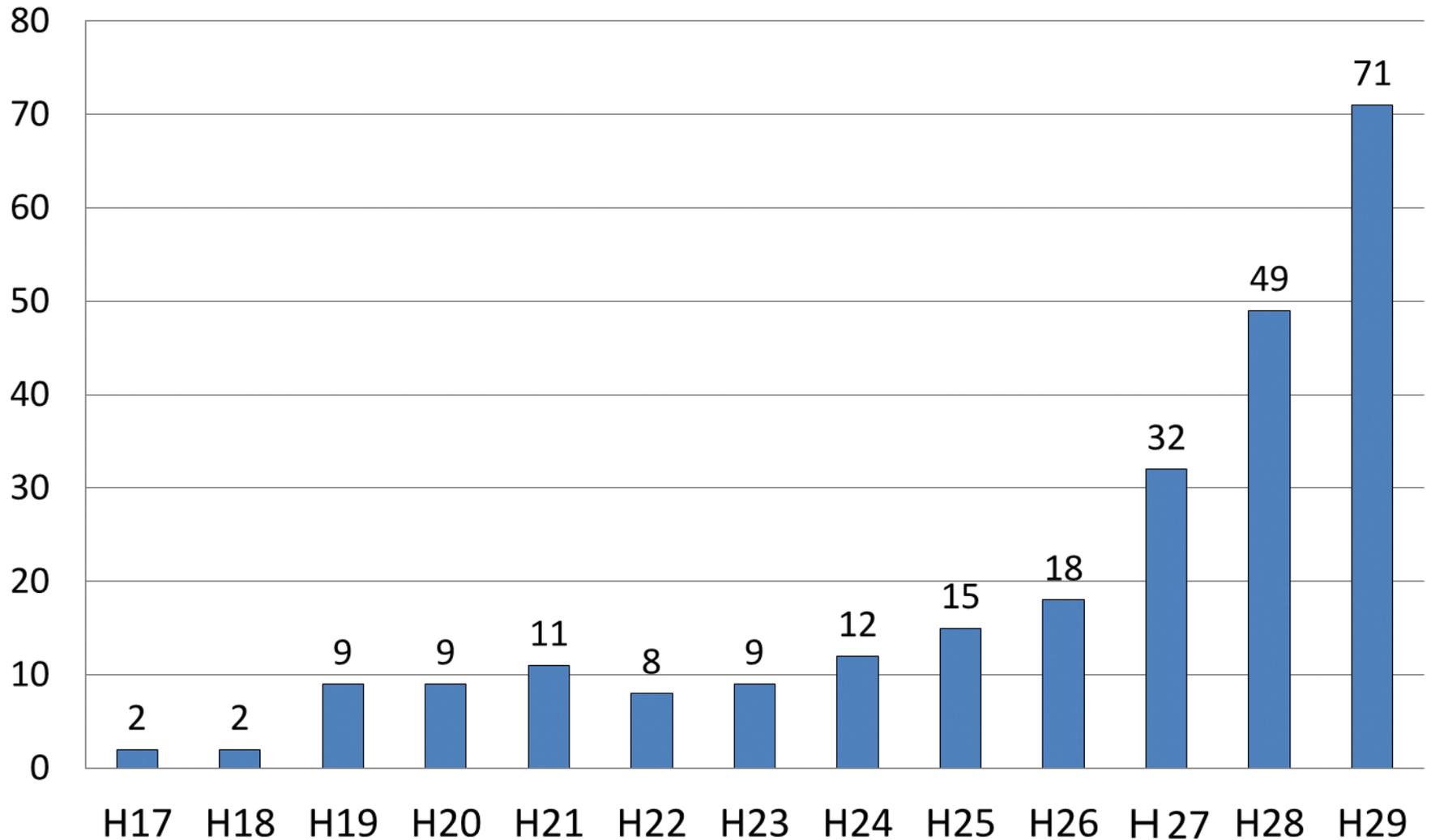
家族来所が本人来所につながる割合が増加



本人相談の継続率が向上



来所相談件数(実数)



SAT-G導入前の課題

① 当事者が相談につながらない

② 継続相談に至らない



改善しつつあります

島根県の依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関

島根県では、県内における依存症の医療体制を整備し、依存症の方が地域で適切な医療を受けることができるよう、「島根県依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関選定要綱」を定め、依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関を選定しました。

(R1.8.1現在)

アルコール	専門医療機関	こなんホスピタル 西川病院
	依存症治療拠点機関	こなんホスピタル 西川病院
薬物	専門医療機関	こなんホスピタル
	依存症治療拠点機関	こなんホスピタル 松江青葉病院 松ヶ丘病院
ギャンブル	専門医療機関	こなんホスピタル 松江青葉病院 松ヶ丘病院
	依存症治療拠点機関	松ヶ丘病院

全国の精神保健福祉センター職員を対象
にSAT-G使い方研修を実施

- H29年 横浜・福岡
- H30年 品川・福岡
- 合計186名が受講

※R1年 東京(11/1) 大阪(12/6)で開催予定

各地精神保健福祉センターや地域 でもSAT-G研修実施

年度	地域
2016	鳥取県
2017	香川県、愛媛県
2018	栃木県、高知県、長崎県、名古屋市
2019	秋田県、香川県、高知県、長崎県、沖縄県、宇和島市、多摩地区(東京都)

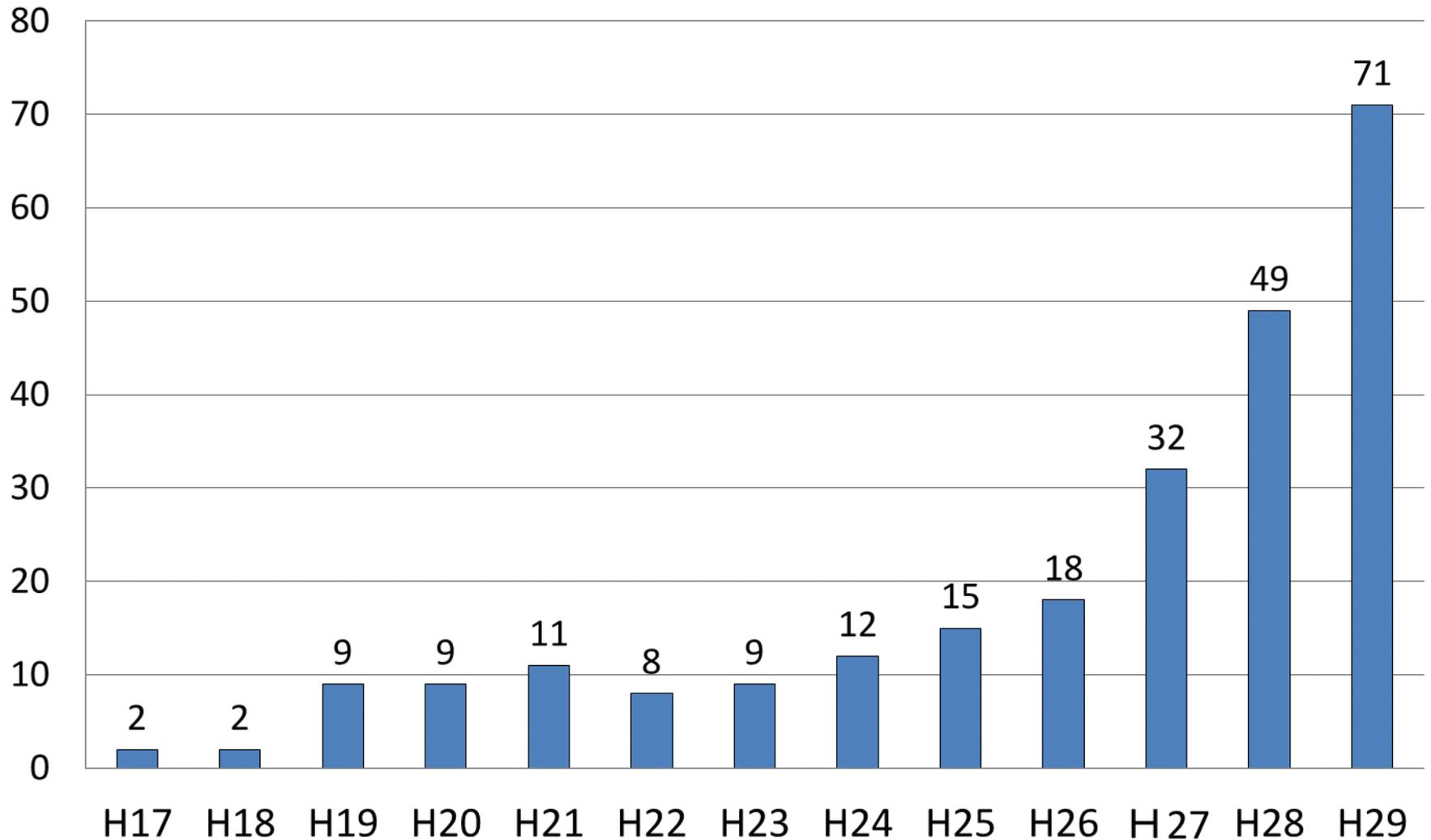
その結果、多くの精保センターでSAT-G が活用されています

集団+個別	集団	個別	検討中	今のところ 予定なし	合計
11	1	20	21	16	69
15.9%	1.4%	29.0%	30.4%	23.2%	100%

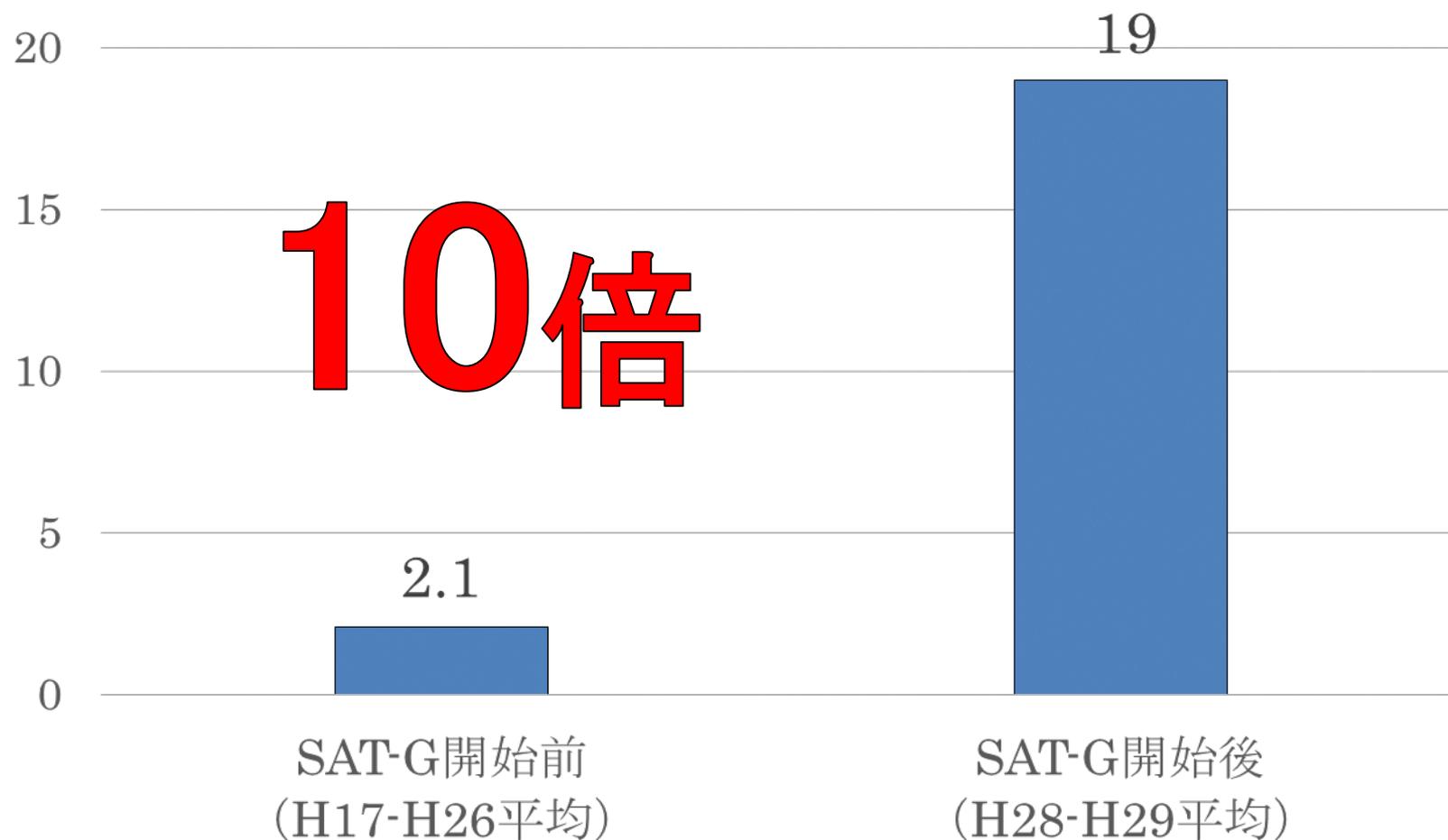
2019年2月1日現在で、全体の
46.4%の精保センターで活用中、
今後活用を検討中のセンターを含
めると76.8%でした

SAT-Gプログラム開発後の 当センターの当事者支援

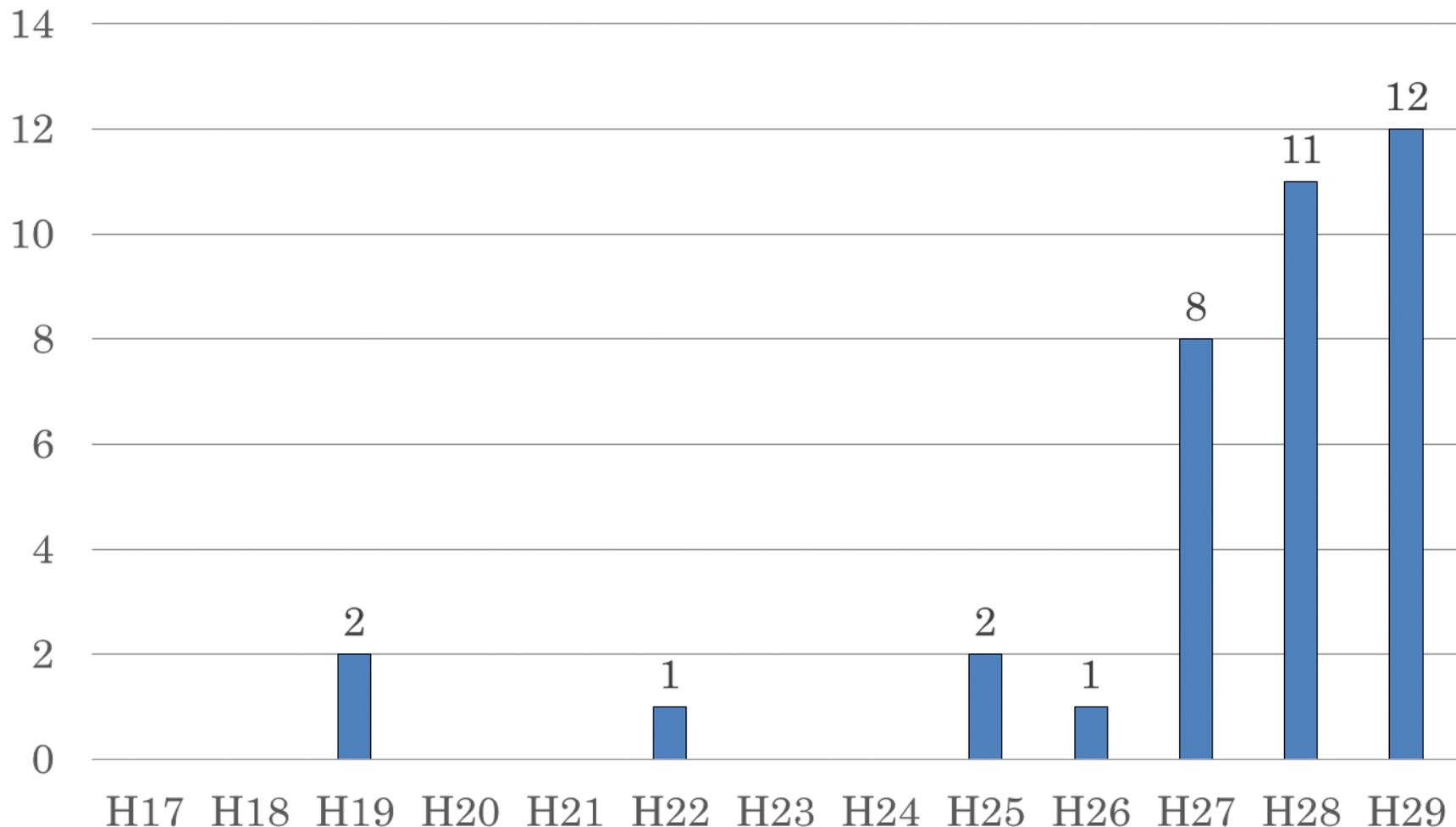
来所相談件数(実数)



紹介ケースが増加



他の障がいがある併存しているケースの増加



SAT-G作成後の課題

① より分かりやすいプログラムの開発

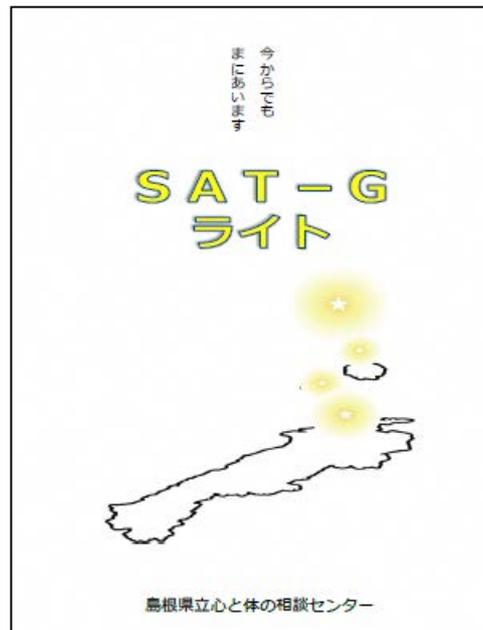
- ・知的障がい、統合失調症の方にも実施可能なプログラム

② 一次的相談窓口でも実施可能なプログラム

- ・障がい者福祉事業所でも実施可能なプログラム
- ・簡易介入としての活用

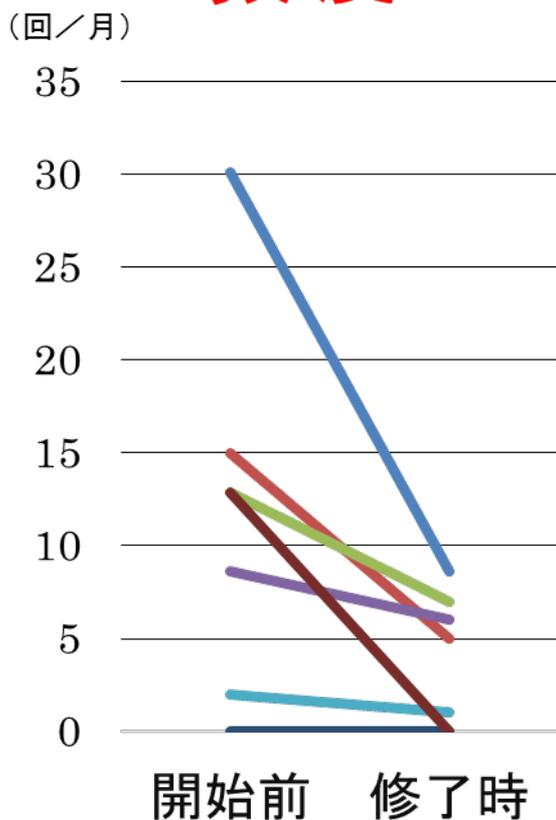
そこでSAT-Gライトを開発

- **全3回**のセッション
- **重複障がい**のある方への支援を目的に作成
- **簡易介入**としての活用も可能

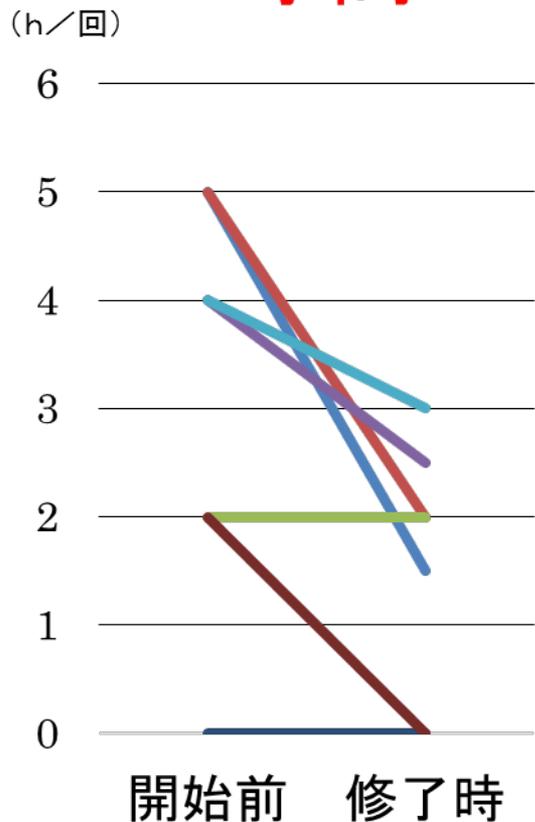


重複障がいがある人も SAT-Gライト受講で改善 (n=8)

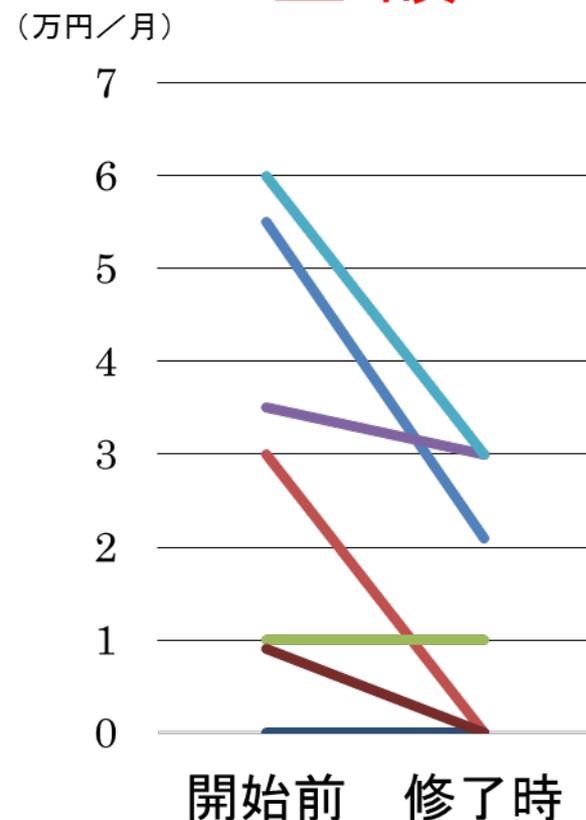
頻度



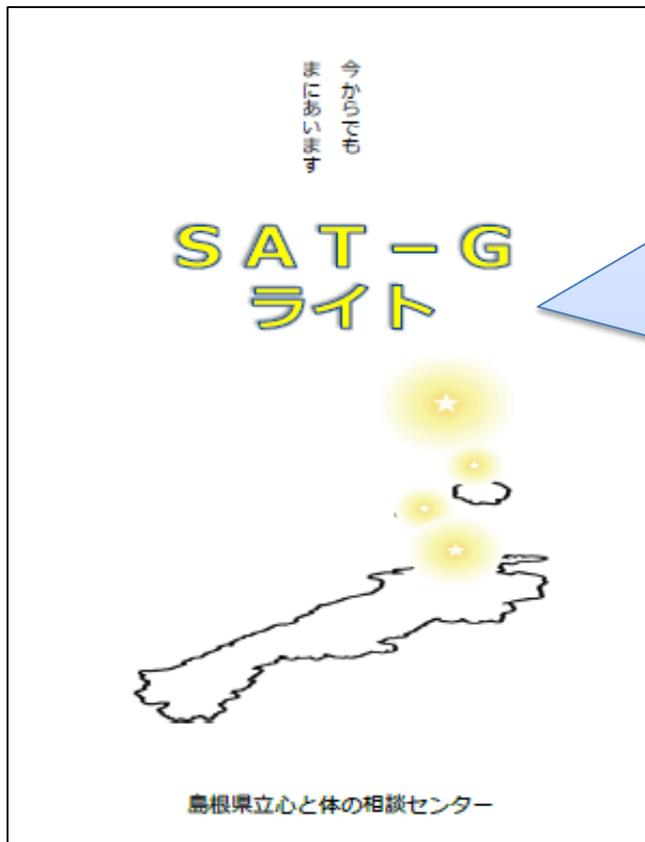
時間



金額



SAT-Gライトの実施



【実施】

精神保健福祉センター

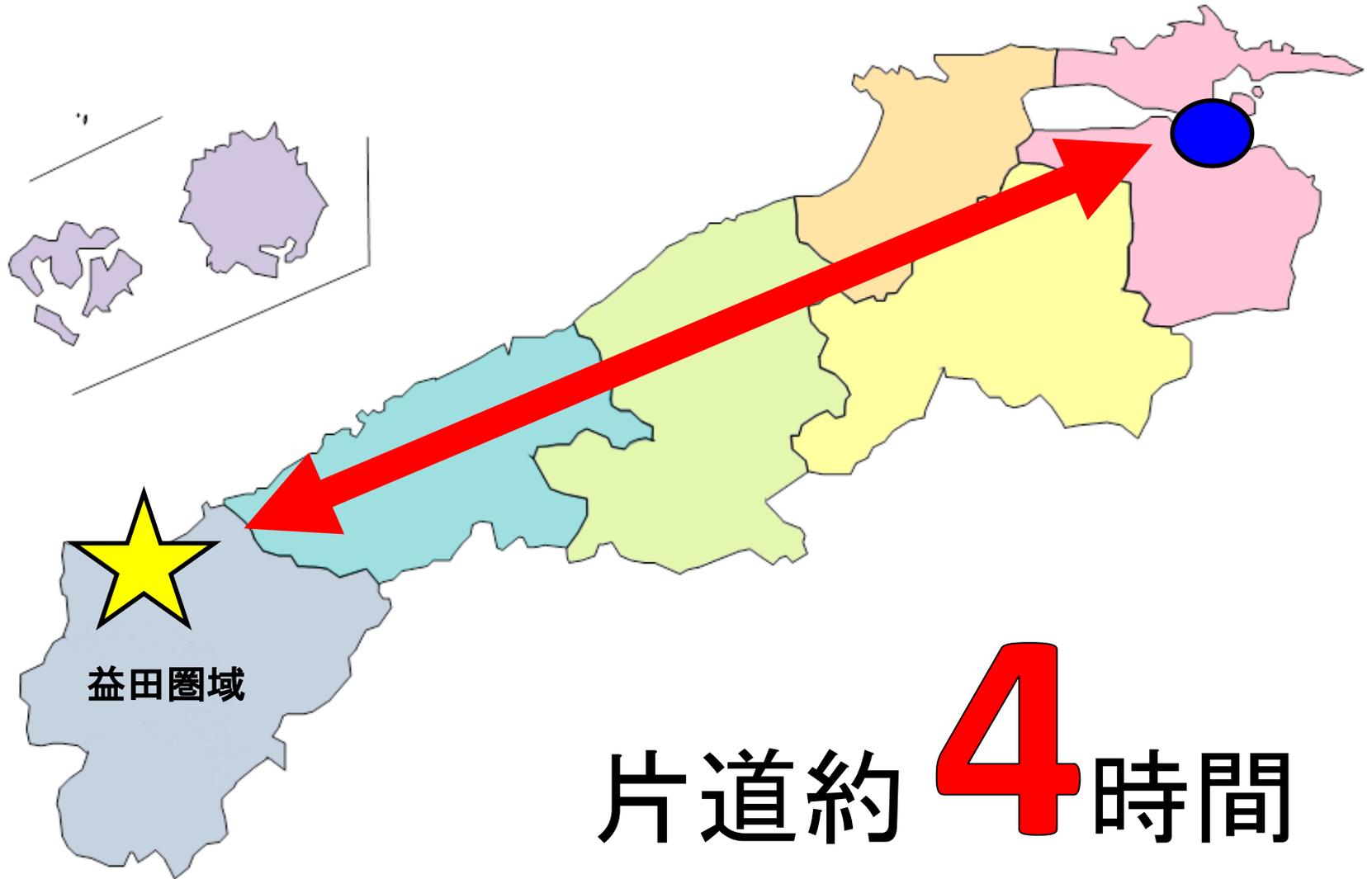
+

地域支援機関

本日お話しすること

- 1) 支援プログラムを活用した
ギャンブル等依存症支援の取組
- 2) 支援プログラムを活用した
2次医療圏域でのネットワーク作り

益田圏域の課題



片道約 **4** 時間

益田保健所の思い「資源はあるのに・・・」

病院

クリニック

市町村

生活困窮

障がい福祉

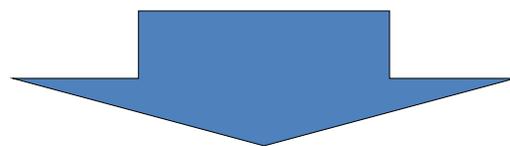
債務相談

保健所

H29年度：対応可能機関を作る

第1回(9月) 基礎研修

第2回(12月) SAT-G使い方研修

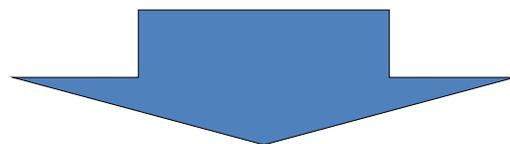


専門医療機関・治療拠点機関誕生

H30年度：専門医療機関へつなぐ仕組み作り

初期介入研修

- ・初期介入に関する講習
- ・グループワーク

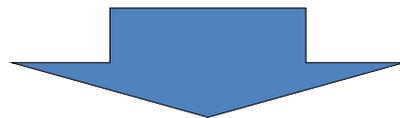


自助グループ(GA)誕生

H30年度：専門医療機関へつなぐ仕組み作り

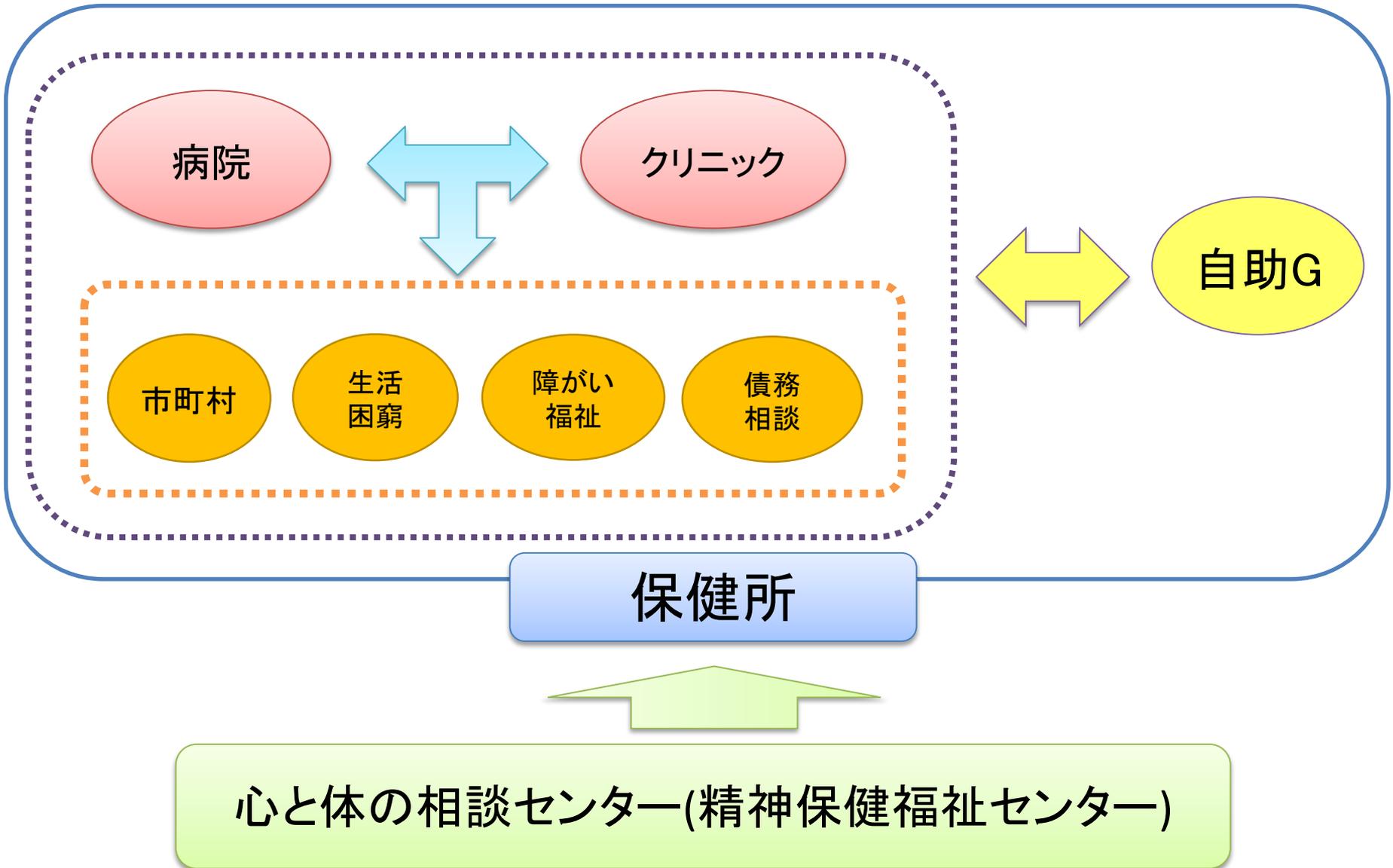
初期介入研修

- ・初期介入に関する講習
- ・グループワーク

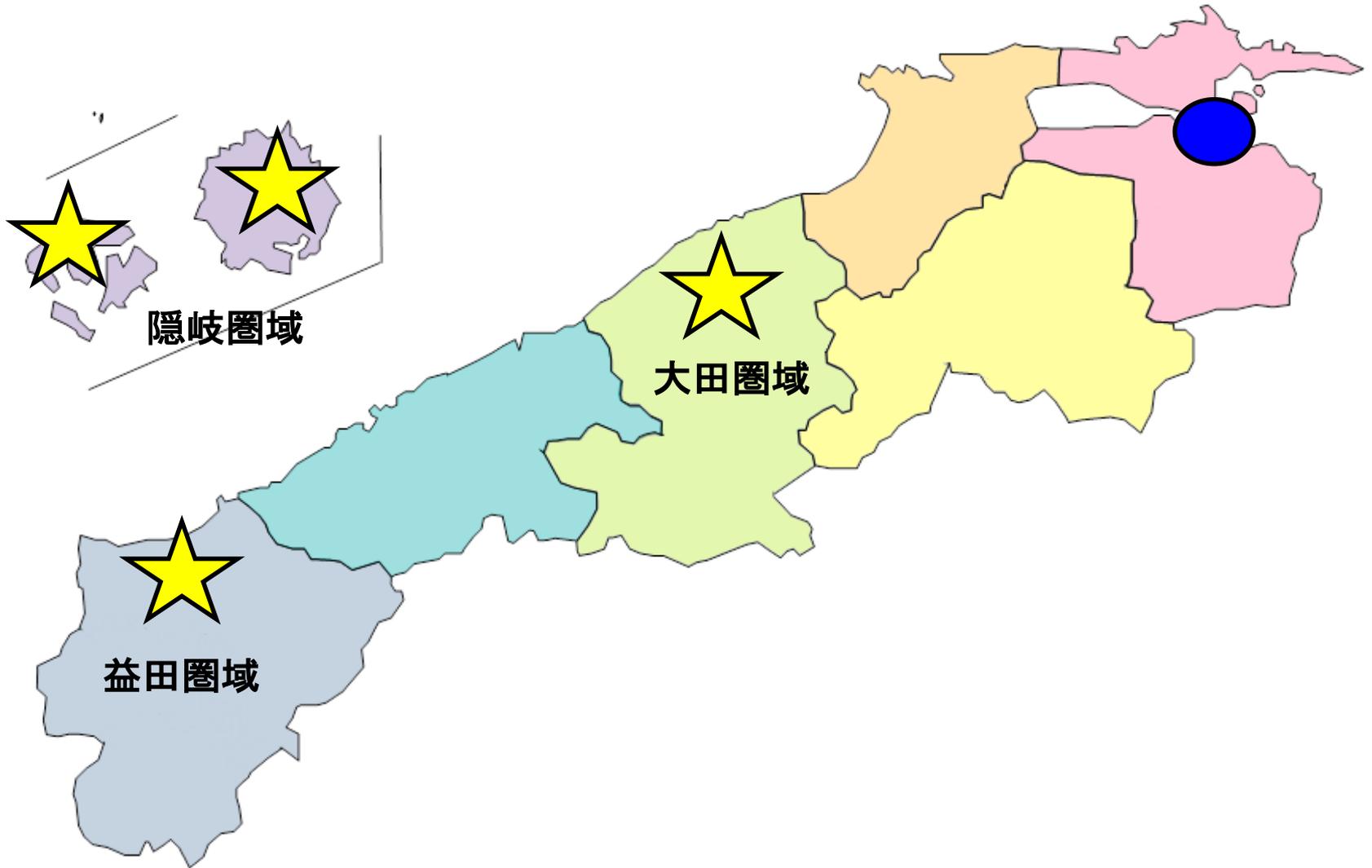


つなぐネットワーク誕生
(前後してGAもスタート)

益田圏域の体制



他圏域へ広がっています



本日お話ししたこと

- 1) 支援プログラムを活用した
ギャンブル等依存症支援の取組
- 2) 支援プログラムを活用した
2次医療圏域でのネットワーク作り

まとめ

- ホームページやリーフレットを活用して積極的に周知することで、ギャンブル等依存症の相談が増えました。
- 支援プログラムを開始したことで、当事者が相談につながるようになりました。
- 現在は、新たな課題である重複障がいがあるギャンブラーへの支援にも力を入れています。
- 加えて、2次医療圏域での体制作りにおいて、支援プログラムやそのノウハウを活用しています。

島根県の取組紹介資料

- ・しまねの精神保健福祉 (Vol.45,P12-P14)
「心と体の相談センターにおけるギャンブル障がい相談状況と支援の取組」
著者：小原圭司 嶋田隆 佐藤寛志 (発行：島根県精神保健福祉協会) ※ネット公開
- ・公衆衛生情報 (Vol.47,/No.4 2017 16-17)
「『ギャンブル依存症』に対する認知行動療法プログラム～島根県における取り組み～」
著者：小原圭司 佐藤寛志 (発行：日本公衆衛生協会)
- ・更正保護 (2017年9月号 P54-55)
「支援プログラムを用いたギャンブル依存症支援 ～島根県における取組～」
著者：小原圭司 佐藤寛志 (発行：日本更正保護協会)
- ・本当の依存症の話をしよう ラットパークと薬物戦争
著者：松本俊彦 小原圭司 (発行：星和書店)
- ・ギャンブル依存症予防回復支援センター アニュアルレポート 2018年4月－2019年3月
P52-P56「第3章 他機関での取組事例」 (発行：株式会社NTTデータ) ※ネット公開